

令和7年度 学校アクションプラン

龍谷富山高等学校

重点項目	1. 教科指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を高め、自主的に学習活動を進めていこうとする意識の向上を図る。 教員の教科指導力向上を図る。 令和8年度1学年から導入される「タブレットを用いた授業」の教員側の実践力と意識の向上を図る。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学習課題を見つけ、意欲的に学習活動に取り組もうとする生徒が少ない一方、与えられた学習課題には真面目に取り組む生徒が多い。 目標を持って、学習時間の確保や学力向上に取り組む生徒が少ない。 タブレットを用いた授業については、現在は限られたクラス、教科でしか実施されていない。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が計画的に学習を進めていこうとする意識を高める。 学年末の評価で不認定となる生徒を減らす。 教員側の令和8年度からのタブレット導入に対しての授業実践力と意識並びに指導力を向上させる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に目標設定、学習時間設定の用紙を配付し、計画的に学習を進める意識を高める。 定期考査前に学習支援の為の補習を実施することで、生徒の学習に関する理解度を深める。 年数回の教員研修・互見授業・校内研究授業等を実施し、教員の指導力向上を図る。特に今年度はタブレット導入に伴う研修を重点的に行う。

重点項目	2. 宗教教育
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 「宗門校の生徒」であるという意識を高め、「学園の心」の具現化に努める。 教室での朝礼・終礼礼拝、慈光堂での全校・学年・クラス礼拝が、正しい姿勢・作法で行われ、聖歌を大きな声で歌えるようにする。 報恩献金・募金活動の目的・意義を周知させ、多方面に善意を届ける。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 大半の生徒が「宗門校生徒であること」を理解しているが、そのことを行動に移すことをできない生徒がいる。 「朝の礼拝(勤行)」に自主的に参加する生徒は少ない。 各礼拝において、聖歌を大きな声で歌える生徒が少ない。 献金の呼びかけがクラスによって違いがあり、金額の多少の差がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 教室や慈光堂での礼拝において、声に出しての念仏、大きな歌声での聖歌が響き渡る。 自主的に「朝の礼拝(勤行)」に参加する生徒が増え、良き聴聞の機会とする。 報恩献金が全クラスばらつきなく、収集できるようにする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学年、宗教科等と連携して、昨年度から行っている「宗門校生徒としての意識調査」を年間数回実施し、生徒たちの意識向上を図る。 学年集会やHRを活用して礼拝の正しい作法の定着、聖歌の歌唱指導を行う。 学年礼拝、クラス礼拝を含め「朝の礼拝(勤行)」では、毎回「出席確認」を取り、「宗教」の評価に加味する。 報恩献金の提出状況等を確認・報告し、生徒たちに活動への協力を呼びかける。

重点項目	3. 進路指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒が希望する進学先を選択し、的確な入試方法で希望進路を実現する。 個々の生徒が志望・適性に合った就職先を選択し、希望進路を実現する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 4年制大学への進学者が毎年一定数いる一方、短大の数が急激に減り、専門学校に進学する生徒が増えてきている。 売り手優位な状況が続き、生徒は就職先を選べる状況である。少子化の影響でこの状況はしばらく続くことが予想される。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 1学年：2年後の自分の姿を想像しながら自分の希望するコースを確定させる。 2学年：自分自身の志望や適性、能力などを正しく理解し、それに基づいて進路選択を行う。 3学年：自分自身の進路選択に応じて、必要な力を主体的に身につけながら進路を実現させる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、学期に1回はさまざまな切り口からの進路行事を入れることで常に進路を意識しながら学校生活を送ることができるようにする。 学校見学や企業見学、進路説明会を実施し、進学や就職に対する具体的なイメージを持たせ、進路選

	扱の幅を広げる。 ・自分の希望する職種でのインターンシップを通して働くことの意義ややりがいを理解し、就職観を育成する。
--	--

重点項目	4. 生徒指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを守る教育の実践。 ・社会で活躍するために必要なコミュニケーション力と規範意識を育成する。（挨拶・規律） ・生徒募集に繋がる生徒指導への移行。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・国内全体において児童生徒の「いのちに係る事案」が増加している。 ・挨拶をする生徒が少ない。 ・授業中、HRでのトラブルや問題行動が増加傾向である。 ・従来の校則を継続している。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事案を発生させない。 ・富山県で一番、挨拶のできる学校を目指す。 ・授業規律を徹底する。 ・生徒心得の改定を検討する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による講話や全体指導を通して「いのちを守る」ことについて学ぶ機会を増やす。 ・職員の挨拶の活性化を図る。 ・一斉指導（集会）を増やし、多くの教職員に指導、伝達の機会をつくる。 ・積極的に個別指導（別室）を行い、指導・支援を行う。 ・リーダー教育（組長・部活動）を実施し、生徒間での社会意識向上に努める。 ・学校ルールの規制強化と緩和について検討する。 ・現代の社会に適した校則やルールづくりを行う。

重点項目	5. 特別活動
重点課題	学校行事や生徒会活動、部活動、SDGs 活動、ボランティア活動等を通し、自主性・責任感・協調性などを育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事などに意欲的に取り組み、充実した学校生活を送っている生徒がいる一方で、これらの活動に関心のない生徒も少なからず存在する。 ・体育大会、文化祭などの学校行事や、生徒会活動、委員会活動において、教員からの働きかけに対し、真面目に取り組むことはできるが、自分の考えを持ち、自主的に行動できる生徒は少ない。 ・SDGs を意識した生活を送ることができる生徒が増加しつつある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率の向上を図る。 ・各委員会で新たな取り組みを実施し、活発な委員会活動を目指す。 ・SDGs 活動をより充実させる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・社会活動部（ボランティア）をより活発化し、校外ボランティア活動や SDGs 活動に積極的に取り組む生徒を育成すると同時に、その他の部活動に加入しない生徒も加入させ、校内ボランティアへの参加を必須にすることで、全員が部活動に加入することを目標とする。 ・月1回の定例委員会では、他の分掌と連携を取り、活発な委員会活動を行う。 ・代議員会を昨年度より活発化し、学校生活・学校行事に生徒の意見を反映する。 ・学年ごとに SDGs 活動への取り組みを考え、取り組ませる。

重点項目	6. 環境と健康指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や各種活動に落ちて取り組むための環境管理（美化）と、自分の身を守ることができる危機管理（防災、防疫）の両面について意識向上を図り、実践（行動化）することで校内外の環境整備を図る。 ・「自分の健康（命）は自分で守る」という意識を向上させ、将来にわたり健康な生活が送れるよう、疾病予防や健康の保持増進に努める態度を身に付けさせる。

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを自ら拾ってごみ箱に捨てる習慣が少なく、ごみの分別も曖昧な生徒がいる。 ・美化に対する意識が低下しており、清掃活動の形骸化につながっている。 ・健康診断後の受診率が低く、自らの健康への意識が希薄である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「きれいな学校・気持ちの良い学校・安心して過ごせる学校」を目指し、常に整理整頓が行き届き丁寧な清掃活動や進んでごみを拾い分別して捨てるなど日常化する学校を目指す。 ・健康診断後の受診率の向上を図り、前年度の受診率 24, 1%以上を目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の環境美化については、特活部（美化委員、保健委員）等と協力して行い、意識化を図る。 ・美化委員と連携して掃除の手順表を徹底し、教員も一緒に清掃活動を行い、環境美化に対する意識を高める。また、ごみの分別についても明確にし、徹底する。 ・避難訓練を通じて、防災に対する知識の向上を図る。 ・健康診断後は、受診カードを生徒に配布し受診勧奨するとともに、学期末の保護者懇談会の機会を捉えて保護者に対しても受診行動への喚起を行う。各学年の保健委員と連携して受診状況を掲示し、学期ごとに受診状況を集計し呼びかける。 ・「ほけんだより」を発行し、保健に関する情報提供と知識の向上を図る。 ・外部講師による保健講座を行い、健康の保持増進につなげる。 ・感染症を含めた疾病予防のための基本行動（清潔保持、咳エチケット、早期受診、休養など）を自ら実践できる態度と意識の喚起に努める。